

## 第2回本宮市総合計画審議会会議録

1 日 時 令和5年6月28日(水) 午後3時30分～午後5時00分

2 場 所 本宮市役所 3階 大会議室

3 出席者	会 長	川 崎 興 太
	副 会 長	宍 戸 喜代子
	委 員	石 井 隆
	委 員	宇 治 和 子
	委 員	遠 藤 恵美子
	委 員	遠 藤 順 子
	委 員	小野間 宏 子
	委 員	佐 藤 一 成
	委 員	佐 藤 幸 男
	委 員	鈴 木 千 尋
	委 員	橋 本 清 徳
	委 員	長谷川 沙 貴
	委 員	宮 崎 真二郎
	委 員	和 田 直 也
	委 員	渡 辺 明 弘
	委 員	渡 邊 大 樹

4 事務局職員	総務政策部長	荒川 貞伸
	政策推進課主任主査兼政策推進係長	武藤 正昭
	政策推進課副主査	佐藤 光
	政策推進課主事	川上 丈瑠

5 傍 聴 人 な し

### 6 議事

#### 報告事項

- (1) 第1回審議会の確認及び第2回審議会の内容等について

#### 協議事項

- (1) 本宮市第2次総合計画後期基本計画(総論等)素案について  
(2) 今後のスケジュールについて  
(3) 第3回審議会開催日程について

## 7 審議経過

【午後3時30分開会】

◆会長〔あいさつ〕

### 【審議事項】

◆会長 報告事項の（1）第1回審議会の確認及び第2回審議会の内容等について事務局より説明を求める。

◆事務局 第1回審議会の説明。

第1回の審議会の際に、委員より市内に住んでいる方の勤め先の割合についての質問に対する回答を保留にしていたため、説明する。追加資料

2020年の国勢調査時の本宮市へ通勤している方と本宮市外へ通勤している方の割合であるが、郡山市、二本松市、大玉村に住んでいる方が本宮市に働きに来ている割合が高いことがグラフから読み取れる。反対に、本宮市外へ通勤している方については、郡山市、二本松市、福島市の順となっている。本宮市内で働く方が多く、昼間人口が高いというのが本宮市の特徴である。

通学者の割合については、市外へ通学している方が多いという状態である。

第2回の審議会の内容については、人口の推計についてのビジョンや後期基本計画の総合戦略と復興計画を一体化する内容を委員の皆様と議論いただきたい。

◆会長 事務局の説明について、質問や意見等はあるか。

ないため、協議事項に入る。

（1）本宮市第2次総合計画後期基本計画（総論等）素案について事務局より説明を求める。

◆事務局 資料1の1ページから6ページの説明。

◆会長 事務局の説明について質問や意見等はあるか。

◆委員 本宮市から郡山市へ通勤している方が多いとのことだが、高齢者施設が足りないことも一つの原因になるのではないかと。本宮市の高齢者施設を充実させるべきと考える。

◆事務局 高齢者施設に関して、要介護者の人数等については年々増加している傾向にある。介護予防といった取り組みなども進めていく必要があると考えている。

◆委員 本宮市内に高齢者施設が足りないことで、郡山市に住民票を移してしまい、人口減少につながっているのではないかと。

◆会長 次回以降、個別の施策について議論していただくため、大事な指摘である。

- ◆委員 **資料1**の4ページの世帯数のグラフについて、1世帯あたりの世帯員数が減ってきており、かつ、ひとり親と子どもの世帯数が増えているが、市としてどのように考えているか。
- ◆事務局 グラフから読み取れることとして、単独世帯や核家族世帯が増えてきており、家族の支え合いをする機能が低下してきていると考えている。家族の支え合いの機能が低下してきているのであれば、地域の見守りやコロナ過で寸断されてしまったコミュニティの活性化が必要であると考えている。
- ◆委員 現在、全国的に空き家問題が多く、空き家の活用の仕方やひとり親世帯の受け皿を整備していくことがハード面で大事であるとする。  
リモートワークの時代になってきているので、アパートの家賃補助等があれば、子育て世帯は移住してくると考える。
- ◆会長 空き家について事務局から説明を求める。
- ◆事務局 市としては空き家バンクというものがあり、空き家を仲介しながら活用する方に、ホームページ等で情報を発信している。加えて、定住促進住宅というものもやっている。
- ◆委員 現在、市営住宅は何戸あるか。
- ◆事務局 市営住宅については、16か所に349戸ある。
- ◆会長 **資料1**の7ページ以降の説明をしていただいた後に、個別の施策についての議論をしていただきたいと思う。  
事務局の説明を求める。
- ◆事務局 **資料1**の7ページ以降、**資料3**の説明。
- ◆会長 各分野の細かい議論の他に、全体的なことを踏まえて議論していただくことが今回の趣旨となります。ご意見がある方はいるか。
- ◆委員 総合計画のデザインについて、文章ばかり書かれては若い方々にとってはわかりづらいと思う。一目見て理解してもらえるようなデザインにするべきであるとする。
- ◆会長 市民と一緒にということであれば、市民に伝わりやすいものでなければならない。多くの自治体で行っているのは、本編は行政が使いやすいものにし、概要版やパンフレットを使い若者に説明するというのが良い。

- ◆事務局 委員から指摘があった総合計画の見やすさであるが、市民と協働してまちづくりをしていくことを前提として、総合計画を知ってもらう、理解してもらうという視点も重要であるので、グラフ等を用いて若い方々に見ていただきやすいデザイン等を考えながら、内容とデザインを並行して策定していきたいと考えている。
  
- ◆委員 資料1の4ページのグラフより、令和元年から出生数が200人を下回っているが、これに関して行政で何か政策的なものをやっているのか。
  
- ◆事務局 出生数に関しては様々な問題が考えられるが、人口の推計から考えられることとしては、25歳から29歳の女性は大学への進学で転出される方が多い現状である。一方で、30代については、男女ともに本宮市に転入してきている状況もある。本宮市に転入される際に、すでにお子さんをお持ちの方が見受けられる。小学校の入学等についても、出生数から推計される人数よりも、入学される方が多いという話もあるため、30代の方々をターゲットにした移住定住対策の効果が現れていると考えている。国勢調査のデータによると、20歳から39歳の未婚率が43.8%という推計もあり、出生数の減少につながっていると考える。  
 実際に何を取り組んでいるかであるが、医療費の18歳まで無料化や、2番目、3番目のお子さんの保育料を減免している。また、今年から給食費小中学校半額支援や子育てパパママリフレッシュ事業を始めている。
  
- ◆委員 人口を増やしていくならば、転入者を転出者よりも上回り、出生数を増やしていく必要がある。そのためには、子育て支援を充実していくことを外からでもわかるように発信していかなければならない。また、財政的にも限りがあるため、なにかに特化していくべきである。先ほど、シングルマザーの話があったが、どのような状況に置かれても子育てができるという安心感があるようなまちにしていくべきであると考えている。
  
- ◆委員 今の世帯の比率を見ると、単独世帯や子どものいない世帯が多い。子どもがいる世帯にお得な本宮市にするのか、子どもがいなくてもお得な本宮市にするのかというのは、戦略を練る必要がある。ターゲットを誰にするか、どのようなお得感があるのかをわかりやすい計画になっていると良いと感じる。
  
- ◆会長 そういったことを念頭において、次回以降施策についても議論していただきたい。
  
- ◆委員 欲しい人に欲しい情報が届いていないと感じる。情報や魅力を的確に相手に発信する必要がある。本宮市でも大丈夫ではなく、本宮市でなければならないという強みが必要である。

- ◆委員 空き家の件で、本宮市内に空き家が多く見られる。リフォームするなどして、住むことができる場所を増やすと転入者が増えると考える。
- ◆委員 少数派の意見も大事にしながら、みんなで住みよくなるような計画を練っていく必要がある。
- ◆会長 今回の会議で出せなかった意見については、その都度事務局へ出していきたい。
- ◆会長 (2) 今後のスケジュールと (3) 第3回審議会開催日程について事務局より説明を求める。
- ◆事務局 資料4により説明。  
第3回審議会の開催日を令和5年7月31日(月)午後1時30分から、同じく市役所3階大会議室で開催する。

【午後5時20分閉会】

<以上>